

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400061		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームいなべ		
所在地	三重県いなべ市員弁町松之本367-1		
自己評価作成日	令和02年9月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491400061-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 02 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に生活意欲の向上と楽しいを感じていただけるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、家族が安心・安全に過ごせるよう職員一同で工夫を重ね、また医療連携も整っている。理念である『笑顔と信頼』を念頭におき利用者が心から笑顔で過ごせるよう支援を行っている。食事担当者が作る食事はメニューが楽しみで美味しいと利用者に好評である。地域からは利用者の受入れを含め家族からの困難な状況での相談が多く寄せられており地域に信頼されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者 職員は 入居者さまの目を見て挨拶ができ 常に理念「笑顔と信頼」の構築に努めます。	笑顔でいることが信頼関係の基本であるということを職員全員で認識をしており、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のために 散歩に出る機会が少なくなっているが 密を避け外に出るようにしています。また防犯 安全のため街灯設置を区から市へ要望の協力をいただきました。	散歩によく出かけていたがコロナ禍の中では散歩にもでる機会がなく地域の方々と交流がとてすくなっているが、地域の方が敷地の整備や草取りに訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開かれた施設を目指して 職員と入居者が ゆっくり散歩に出かけているのを地域の方々に理解していただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が 開催出来なかったことを、自治会長や民生委員に報告したが、年度内に開催できるよう計画します。	地域の多彩な方々が委員ではあるがコロナ禍の中で開催が出来ずにいる。	会議という形態に縛られず、コロナ禍の中で可能な意見集約や取組の報告方法を企画しサービス向上に活かしていく事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新入居者様の自宅での情報提供を受けたり、地域包括支援センター相談に乗っていただきました。	利用希望の方の情報提供をもらう等、日頃から連絡を取り合い協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ナンプグループ全事業所の取り組みとして、虐待防止ポスターを各施設に掲示し 確認しながら職員は虐待防止意識を持つようにしています。	『その笑顔奪わないで』という全事業所の目標を掲げ、研修にも参加し具体的な事例をもとに身体拘束・言葉の拘束に日々気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時には 毎回虐待防止について出勤者全員が声に出して唱和し、1日の支援をはじめます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば 職員の知識向上のために参加できる体制を作り、全員で情報共有し活用出来る様にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には必ず締結契約時には説明させていただき、また疑問点については きちんと納得頂けるまで説明いたします。改定時は説明させていただき同意書をとりかわさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時など常に話をさせていただき 遠慮なく本音で話していただけるような 関係づくりを行い、要望があれば対応させていただきます。	コロナ禍において面会は出来ないが、電話を利用しての状況報告を行い要望も聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内容の改善や見直しについて 施設会議や日常的に意見、提案に常に耳を傾け検討させていただきます。	施設会議や日々の業務引き継ぎ時に意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時職員と面談を行い 職員の仕事に関する意見を聞くようにしています。また休憩をとりやすくし、休憩室の整備をしました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会は今年は出来なかったが、法人内で全員が研修を受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や関連施設の訪問を行い、他施設の取り組みを見学し、支援の参考にさせていただきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安時には 職員がじっくりそばに寄り添い話を聞かせていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際し 家族様が困っていたことにしっかり耳を傾け 入所後の不安解消に応えさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から入居者様の情報収集をしっかり行い 本人 家族の不安を軽減できるサービスから始めます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを入居者様と一緒に作業しながら楽しさを味わっていただくようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様 入居者のきずなが途切れないように、面会時には施設での生活の様子を説明させていただき安心していただきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が会いたい人の連絡先を探していただけるようお願いしました。新聞等に知人が掲載されていて 懐かしく思われていることを聞かせていただきます。	利用者が古い知人を思い出し、面会希望を叶える様に支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや作品作りを一緒に行い共同作業をしたり 話の輪に入っただけよう声掛けさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族様とも 連絡が取れる関係が続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不穩には 本人の気持ちに寄り添い帰宅願望が強いときも 一緒に歩く	利用者一人ひとりの想い伝える形が違うために時間をかけ聞き取るように努めている。耳の不自由な利用者には大きな字での筆談を心がけ、一人ひとりの状態に寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様 家族様に今までの生活歴を聞かせていただき、くせや生活習慣を理解しながら支援させていただきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は入居者様の体調状態や心身の状態を見据えて 静養や声掛けを行わせていただきます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状にあわせた支援ができるよう常に状態把握を行いながら、意見やアイデアが出せる計画にする。	月1回の会議・3ヶ月毎のモニタリングを行い、利用者へのケアの内容を、本人・家族の希望要望や医師の意見を考慮し検討している。状態変化があった場合は随時対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化 気づきは記録に残し 必ず職員同士共有します。申し送りには必ず報告し、情報交換をいたします。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が 苦痛なく過ごせるよう本人や家族の要望等に 常に耳を傾け 多種多様なサービスにて支援させていただきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の住人、ボランティアさん 自治会長 民生委員 なじみの方々とコミュニケーション作りをいたします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が不安に感じたことを職員は 家族医師にきちんと伝えて 正確な情報収集を行い伝えられるようにいたします。	入居時に希望を聞き、かかりつけ医への受診または協力医への受診支援を行っている。訪問看護ステーションとの連携を行い適切な医療体制を築いている。利用者の不安や苦痛を取り除くように情報共有を図り支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化で不安な時は 看護師かかりつけ医に報告し 指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時は職員は施設でのご本人様の生活状態を報告させていただくよう可能な限り同行いたします。また入院中は医療機関 家族と常に情報交換を行い家族の意向不安軽減に努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族には 体調の変化について説明させていただき 終末期の迎え方について考える時間をもってもらいます。主治医には家族の意向を伝えさせていただきます。本人の苦痛を少しでも軽減出来る様な支援をチームとして行います。	重度化にむけて常に本人・家族と話し合いをもち、終末期のあり方を医療関係者と連携しながら利用者の希望に沿った看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル作成し、定期的にAED、人工呼吸法の訓練を職員全員で行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練 消防訓練を定期的に行って災害時の対応ができるようにしております。備蓄品の在庫確認も年2回行い 期限切れがないようにしてます。	避難訓練・消防訓練を行っている。災害時指定避難所への移動は難しいため施設内にとどまる事を想定にしており、備蓄品の定期点検も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重させていただき、混乱時もその方の人格を損ねないような声掛けを行い プライバシー保護に心掛けます。	利用者一人ひとりの人生に寄添い、プライバシーを損なわないような対応を心がけ、なるべくゆっくりとした声かけを心かけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時間、就寝時間などできる限り本人の意思を大切にさせていただき、本人の決定が出せる様にします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ画一的な過ごし方だけでなく レクリエーションの参加も本人の意思に沿って行います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ることはご本人にやっていただき、服装もプライドを傷つけないよう、さりげなく身だしなみを整えさせていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞かせていただきながら献立に反映させていただきます。	野菜の差し入れが届き、豊富な献立を考えて食事作りを行っており利用者に好評である。今年度は畑でさつまいもを栽培し収穫をよるこんだ。戦争中の話題にも発展した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、食器、嗜好を一人一人の状態に合わせ 自分で食べれるようにしています。水分もゼリー、ヨーグルト、アイスクリームなどお茶だけに決めず摂っていただきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声掛けを行い、できないところは 支援させていただきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態に合わせて トイレ誘導させていただき、夜間も見守りながら トイレでの排泄介助をさせていただきます。	排泄パターンの把握に努め、日中は利用者の状態や様子を見極めトイレ誘導への声かけを行って排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、飲水量の記録確認を行い、脱水に気をつけ、食べ物の工夫 体操等運動を取り入れてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室内の室温 湯温も本人の希望も取り入れてゆっくり入れる環境作りを行います。	概ね週2～3回の入浴を希望に沿って支援を行っている。利用者の気分によっては臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし 夜間安心して寝られるように空調管理 見守りをさせていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は毎日の服薬を確認し見守りを行います。薬の変更等 全員で共有致します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人にできること、好きなことをやっていただきます。役割を持っていただき、感謝を伝えることでやりがいをもっていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩にでかけます。不穏時は一緒に出掛け ゆっくり話をしながら歩きます。本人が希望を聞かせていただきながら家族との外出支援させていただきます。	外出が好みの利用者が多くなるべく散歩に出るようにしているが、コロナ禍の中制約もある。帰宅願望の利用者には寄り添って散歩に出かけ、長距離を歩くことで気が紛れることも多くなるべく散歩できるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭所持はありません。必要であれば 立て替えさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族 友人からの手紙の返事を一緒に書く支援をさせていただきます。遠くの家族との電話も支援させていただきます。年賀状 暑中見舞いなど家族あてに自書で出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全清潔に過ごしていただける様、整理整頓に心がけ、空調 照明 湿度の管理を行っています。季節を味わっていただける空間作りを大切にいたします。	清潔に保たれたリビングの大きな開口部からは時間の流れを感じることができ、広い廊下では思い思いの場所で寛ぐことができる様ソファが置いてある。利用者は大相撲が始まると取組表を眺めテレビ観戦をして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり休める様居室に誘導させていただいたり、他の入居者さまとコミュニケーションをとっていただけるようソファ等 用意させていただきます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のクローゼット内の衣服の整理等 一緒に行えるような枚数にしたり 本人が使いやすいようにさせていただきます。	居室内には大きなクローゼットが備えられており整理整頓がしやすくなっている。利用者と一緒に片付けを行い、使いやすい居心地よい居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態を把握し、健康 身体機能の維持のためにも ラジオ体操、嚙下体操など無理のない動作、運動レクを取り入れています。		